

TAC・Wセミナー 2023・2024年度合格目標

国家総合職内定者アドバイザーホームルーム

第2回『国家総合職合格への道

～敵を知り己を知れば百戦危うからず～』

11月28日(月)新宿校・11月29日(火) オンライン



無断複製（コピー等）・無断転載等を禁じます。

【HRとは】

私たち国家総合職内定者アドバイザー（LA）が皆さんの勉強と官庁訪問対策をサポートする機会です。内定に近づくための6回のHRを用意しています。

基本的に月一回のペースで新宿校とオンラインにて開催する予定です。内定者スタッフが就活生だった去年の同じ時期に不安に思っていたことや、欲しかった情報などを徹底的に分かりやすくお伝えしたいと思っています。

途中入場・退出は自由です。日ごろの勉強の息抜きに、小さな悩みを解消するために、内定者にしか分からない話を聞きに、お気軽にご参加ください！

LAに寄せられた質問やその回答についてもその都度このHRで紹介したいと思っているので、そちらも併せてご利用ください。

【今後の予定】

第3回HR

「国家総合職合格への道～明けない夜はない～」
模試の活用法、年末年始活用法、民間就活のアレコレ

12/12（月）18：30～19：30 オンライン

12/14（水）16：30～17：30 新宿校

第4回HR

「官庁訪問の実際・省庁研究のアドバイス（仮）」
日程未定

第5回HR

「官庁訪問の噂と真実・志望動機カウンセリング（仮）」
日程未定

第6回HR

「面接カード練習（仮）」
日程未定

（日程・校舎にご注意ください）

目次

【LAの自己紹介】

【教養区分2次試験後の身の振り方講座】

【LAの”私流”官庁訪問対策】

【官庁訪問対策のすゝめ】

【各試験区分の勉強方法】

【全区分共通：教養試験編】

【法律区分編】

【経済区分編】

【政治・国際区分編】

【専門区分を受験したLAの勉強スケジュール】

【前回いただいた質問への回答】

【今後の告知】

【LAの自己紹介】

葛西 万由

厚生労働省/早稲田大学文化構想学部/政治・国際区分

- 【併願先】内閣府
- 【訪問先】厚生労働省
- 【講座】政治・国際本科生
- 【専攻】メディア論
- 【得意科目】政治学、知識科目
- 【苦手科目】国際法
- 【しておいてよかったこと】省庁イベントの参加 担任カウンセリング
- 【マイブーム】キックボクシング後の一杯
- 【メッセージ】

「何のために働きたいか、誰となら頑張れるか」

この原点に立ち返りながら、将来の自分と向き合うことが大切だと思います。微力ながら皆さんのサポートをさせていただければ幸いです。

HRや相談コーナーでお待ちしています♪



谷口 元軌

消費者庁/法政大学法学部/法律区分

- 【併願先】文部科学省、内閣府、裁判所事務官、東京都庁、国税専門官
国家一般職
- 【訪問先】文部科学省、内閣府、消費者庁
- 【講座】法律本科生
- 【専攻】民法（消費者法）
- 【得意科目】憲法、国際法
- 【苦手科目】政策論文、文章理解（英語）
- 【しておいてよかったこと】説明会等への参加、受験生同士での情報交換
- 【マイブーム】美味しいカルボナーラの研究
- 【メッセージ】

内々定に至るまでの道のりは長く険しいものですが、同時に乗り越えた時の喜びもまた格別なものです。

そうした私たちの経験を糧として皆さんの最善の結果の一助となれば嬉しく思います。元受験生として、同じ志を持つ者として皆さんに会える日を楽しみにしています！



野里 夏彩

防衛省/慶應義塾大学法学部/政治・国際区分

【併願先】外務省、東京都庁、国家一般職

【訪問先】①防衛省②外務省

【講座】政治・国際本科生

【得意科目】国際関係、人事院面接

【苦手科目】数的処理

【しておいて良かったこと】説明会への参加、担任カウンセリング、HRへの参加、模擬面接、友人との官庁訪問対策ゼミ

【マイブーム】味が濃いラーメン屋探し

【メッセージ】

内々定をいただくまで不安や葛藤がたくさんあると思いますが、少しでも解消できるよう全力でサポートします。気軽に声をかけてくださいね！一緒に頑張りましょう！



長井 優樹

経済産業省/慶應義塾大学文学部/政治・国際区分

【併願先】農林水産省・国土交通省・東京都庁

【訪問先】経済産業省、農林水産省、国土交通省

【講座】政治・国際本科生

【専攻】東洋史

【得意科目】憲法等の暗記系科目

【苦手科目】政策論文、数的処理

【しておいてよかったこと】筋トレ、小ネタ作り

【マイブーム】流行に乗らないようにすること（写真のような古き良きを追求）

【メッセージ】

社会人経験の体験や就活を2度経験している私ならではのアドバイスが出来ればと思います。就活という答えのない難問にともに立ち向かいましょう。



橋本 将

文部科学省/横浜国立大学経済学部/教養区分

【併願先】厚生労働省、内閣府、東京都庁、横浜市、国家一般職、
国税専門官、裁判所事務官一般職、旭川市

【訪問先】厚生労働省、内閣府、文部科学省

【講座】横国本科生

（地上国般コース国家総合職併願講座（経済区分））

【専攻】財政学

【得意科目】数的処理、財政学

【苦手科目】社会科学

【しておいてよかったこと】説明会計60回以上参加、勉強会

【マイブーム】体力の限界を超えたとしても遊び続けること。

【メッセージ】

内々定までにはたくさんの困難があり、誰しものがつらい、苦しい思いをします。私自身も官庁訪問までの期間は本当に苦しかったので、現在受験勉強を頑張っているみなさんに少しでも力になればと思います。HR等で会える日を楽しみにしています！



佐藤 凜

総務省自治分野/早稲田大学法学部/教養区分

【併願先】金融庁、農水省

【訪問先】総務省

【講座】1.5年法律本科生、教養区分強化パック

【専攻】民法債権法

【得意科目】官庁訪問、自己分析

【苦手科目】企画提案試験

【しておいて良かったこと】説明会への参加、TACホームルーム・省庁説明会等での友達作り、担任カウンセリング

【マイブーム】料理

【メッセージ】

教養区分の対策に出遅れてしまった方・苦手な方、部活・サークルなど両立を頑張りたい方、ご相談ください！官庁訪問対策も意外といけます！ゆるくおしゃべりしたい方もぜひぜひ。国総就活楽しく乗り切ろう！



高宮 康大

環境省/東京大学文学部/教養区分

【併願先】総務省、内閣府

【訪問先】環境省、総務省、内閣府

【講座】秋試験経験者区分本科生

【専攻】国語学

【得意科目】数的処理、自然科学

【苦手科目】社会科学

【しておいて良かったこと】自主ゼミ、HR参加

【マイブーム】サイクリング（最近さぼり気味）、温泉（これからがオンシーズンです）

【メッセージ】

就職活動を通して、たくさんのつらいことがあると思います。私は「自分」と全力で向き合うことが一番大変でした。寄り道に寄り道を重ねた就職活動を経て、相談できる誰かがいることが非常に力になると感じたので、少しでも困ったことがあればカウンセリングやHR等で気軽にLAに声をかけてください！



【教養区分2次試験後の身の振り方講座】

1.合格発表まで

教養区分お疲れさまでした！この数か月間、緊張感のある時間を過ごしてきたと思います。存分に自分を労わってあげてください。また、1番まとまった時間が取れる時期です。合格発表後からは官庁訪問対策や民間就活、または春試験や併願先の勉強などが本格的にスタートするので、いまのうちに好きなことをやりましょう！対策や勉強など、何かしないと不安な人は説明会に行くと良いと思います。

2.合格発表後

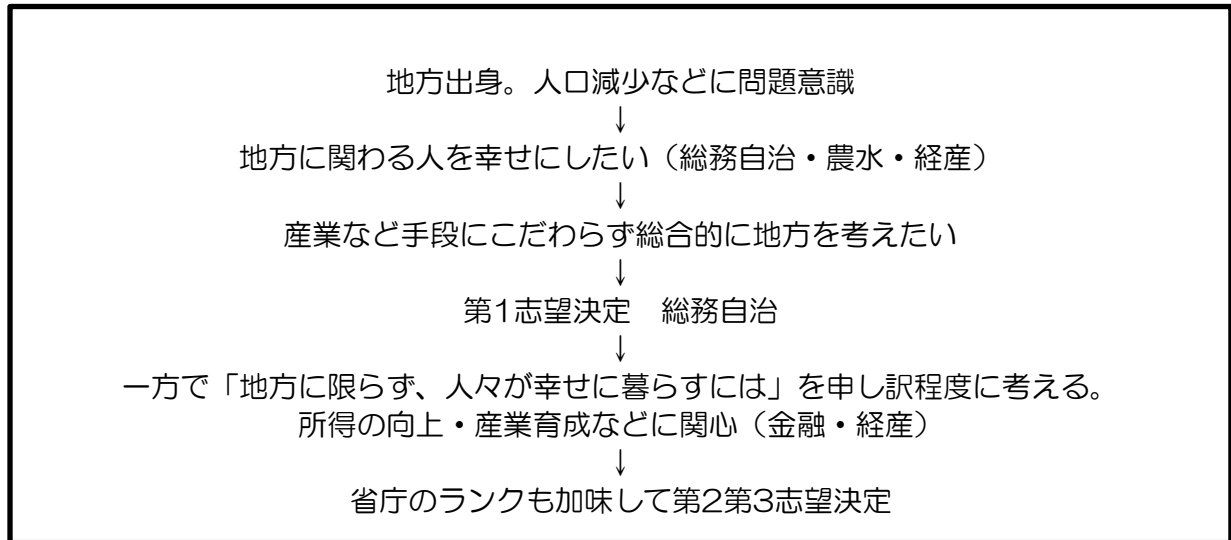
晴れて合格された方は、官庁訪問や民間就活を見据えて対策などを徐々に始めましょう。民間就活をされる方は、12月後半に申し込み締切の冬期インターンシップも沢山あるので申し込んでみると良いと思います。この時期に自己分析やES提出を経験しておくことは重要だと思いますし、民間のインターンシップは公務との違いや自分の興味・適正を再確認するいい機会となると思います。官庁訪問対策に関しては、情報収集を進めていくと良いと思います。政策研究を本格化するにはまだ早いと思われるので、どんなスケジュール感で対策を進めるべきか、どのように説明会や省庁イベントを利用すべきかなどを身近な講師や内定者、LAなどに聞いてみましょう。

残念ながら不合格となってしまった方は、まずは美味しいごはんを食べてお風呂に入りつつゆっくり寝て自分を労わりましょう。教養区分対策で培った力は春試験で遺憾なく発揮されるはずです。そして、どこが点数とれていないのかを検討しましょう。春試験までまだ半年あります。対策すれば十分に高得点を目指せます。また、省庁政策研究会や業務説明会への参加も忘れずに行いましょう。専門試験対策は12月からでも効率性を重視すればまだ間に合います。心配なこと、わからないことがあったら担任講師やLAに質問して悩みを潰していきましょう。

???「失敗することは恥ずかしいことじゃない。立ち上がらないことが恥ずかしいんだ。」

【LAの”私流” 官庁訪問対策】

佐藤（総務自治）



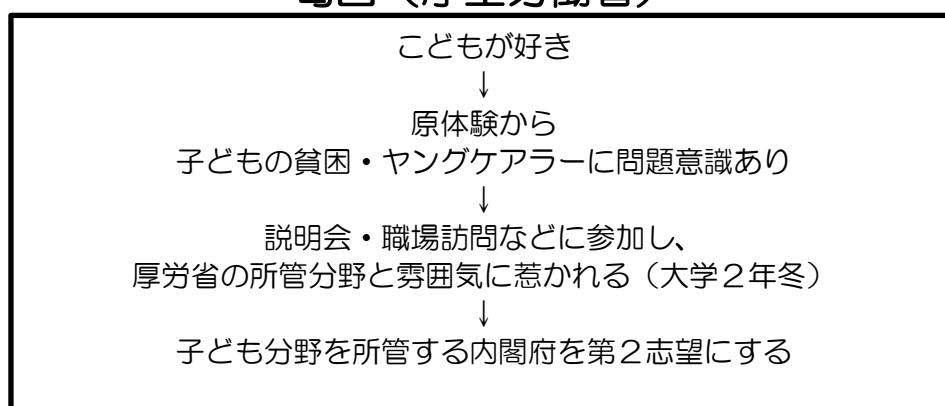
・良かった点：原体験がはっきりしており自分のやりたいこと、やるべきことに確信を持っていた。

・反省点：総務自治以外に関して、関心はあったが正直自分のやるべきことだとは思えずあまり説明会・対策にコミットしなかった。リスクヘッジが下手すぎた。総務自治の次に多く説明会に参加した経産省に日和って訪問しなかった。

・工夫した点：秘書課職員と1対1で話せるイベントはちゃんと準備した。

	総務自治	金融	農水
12月	説明会に参加 教養区分合格者向け説明会など 採用担当と面談イベント		
1月	説明会		
2月	説明会		
3月	説明会 課長補佐面談イベント	官庁合同説明会	1dayインターン
4月	説明会		官庁合同説明会
5月	説明会	説明会	
6月	説明会 TACや説明会でできた友達と勉強会	訪問断念	個別相談会 訪問断念

葛西（厚生労働省）



・良かった点

- ①かなり早く志望省庁が決まったので、第1志望の厚労省に全力を捧げられた。
大学2年次から行けるイベントには全参加。
- ②参加後に感想・学び・疑問をまとめた。（政策研究&官庁訪問のネタにもなる）

・反省点

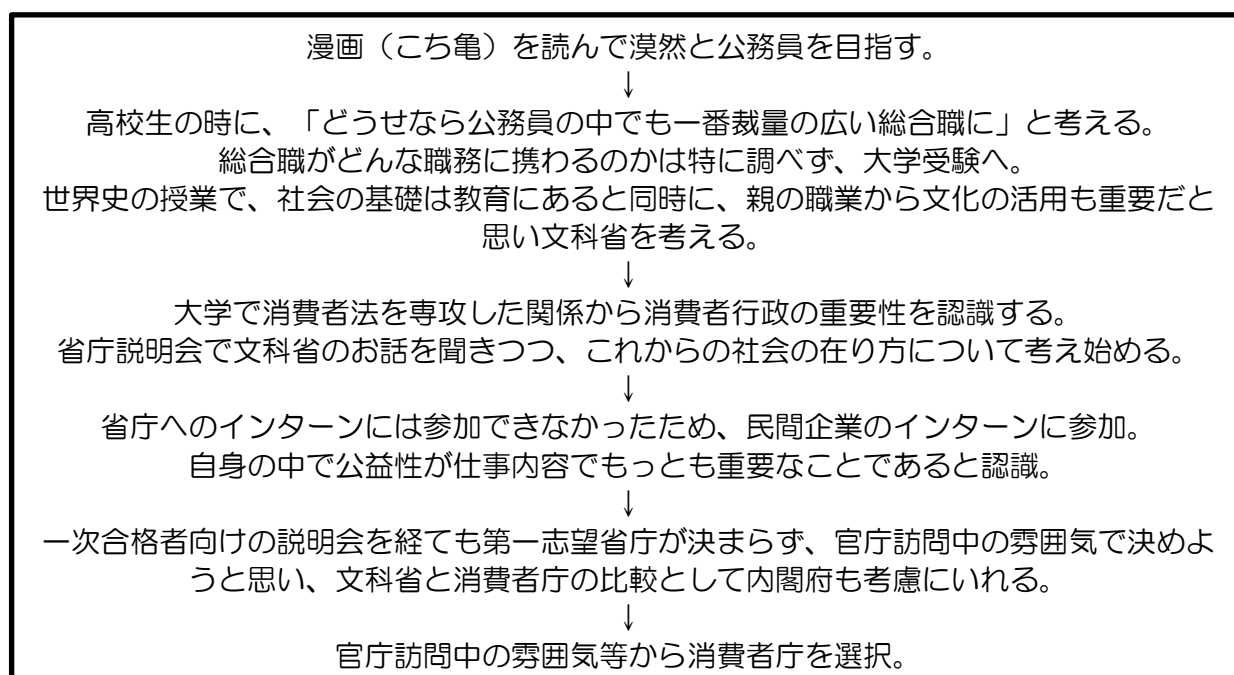
他の省庁も見っておけばよかったかも。志望してなくても社会勉強になったはず。

・工夫した点

- ①事後アンケートをガチった。「厚労省はアンケートをめっちゃ見る！」と噂を耳にし、政策への考え&学び&熱意を小論文並みに書いた。
- ②採用担当や職員に自分のキャラクターと問題意識をアピールした。
- ③常に「等身大の自分」で臨んだ。嘘は付かない。話は盛らない。カッコつけない。

	厚生労働省	内閣府
12月	説明会×2・ワークショップ×2	説明会×1
1月	説明会×3	説明会×1
2月	説明会×3、個別相談×1、職場訪問×1	説明会×2
3月	説明会×2、職場訪問×1	説明会×1
4月	説明会×2	なし
5月	説明会×1、職場訪問×1	説明会×1
6月	説明会×1、個別相談×1、OBOG訪問、勉強会×6	説明会×2

谷口（消費者庁）



・良かった点：他省・民間と比較しながら、最終的に消費者庁を選択できた。

・反省点：民間、他省も検討した上での消費者庁という選択だったが、当時はまったく興味のなかった省庁も話を聞きに行っても良かったかもしれない。勉強との兼ね合いにもよるが、やはり将来を選択する重要な分岐点となる為、徹底した自己分析と丁寧な進路選択が必要だと思われる。

・工夫した点：各省庁の設置法（消費者庁設置法など）を読んだこと

	消費者庁	文科省	内閣府
12月	説明会は開催しておらず、白書や大学の教員から話を聞く。	説明会に参加	特になし
1月		特になし	
2月		ワークショップに参加	
3月		説明会に参加	説明会に参加
4月		特になし	特になし
5月	説明会に参加	説明会に参加	説明会に参加
6月	説明会に参加	説明会に参加	説明会に参加

野里（防衛省）

高校時代の平和活動の経験から平和や戦争について興味を持ち、安全保障や政治に関わる仕事がしたいと思うようになる。



外交官とお話したことや当時外務大臣だった河野太郎に会ったことで漠然と外務省に入りたいと思い始める。



大学3年次、外務省と第二志望であった防衛省の説明会とインターンに行き始める。



防衛省の採用担当と一対一でお話しし、泣いてしまうほど感動的な国防への思いと本気を知る。ゼミでリアリスト的な国際政治観を身に付けたことで国防の必要性を認識する。このころから防衛省に気持ちが傾き始める。



防衛省と外務省の説明会には全て参加し政策への理解を深める。説明会に行くたびにそれぞれの省庁に良さを感じ、常に気持ちが揺れている常態になる。



・良かった点

- ①説明会にはほとんど参加し政策や省庁に対する理解が深められたこと。
- ②素直に話したこと。自分の平和に対する思いや問題意識を採用担当に正直に話したことで、防衛省への適性を伝えることができた。
- ③勉強会への参加。TACで開催される自主ゼミを利用したり自分で勉強会を開催したりして面接練習やES添削をした。これがあったことで民間就活をしていない私でも面接慣れをすることができた。

・反省点：他の省庁の説明会にも主体的に参加してもよかった。

・工夫した点

- ①印象に残る学生になるように努力した。（説明会是对面で参加する、説明会では毎回質問する、採用担当と一対一で話す場では準備を怠らない。）
- ②隙のないES。徹底的にES添削をしてもらい、どんな質問が来ても答えられるようにし、論理に矛盾がないかを勉強会の仲間に確認してもらっていた。

	防衛省	外務省
12月	説明会×1、少人数座談会×1	説明会×2、内定者座談会×1
1月	説明会×1	説明会×1
2月	説明会×1、WS×1	WS×3
3月	説明会×2	説明会×2
4月		説明会×1、個別面談×1
5月	説明会×5、少人数座談会×1、勉強会×1	説明会×5、勉強会×1
6月	説明会×5、勉強会×6	説明会×4、勉強会×7

長井（経済産業省）

歴史好きであったこと、映画やドラマの影響から多くの人を支える仕事、ピンチの時に活躍できる仕事をしたいと考える



物流企業での経験から現場の職人の労働環境や国内の過当競争を何とかしたいと考える。これらの問題が制度的な問題だとすると国家総合職として働くことが自分の思いを実現する最適な手段と考える。



1月の政策立案ワークショップで経産省への憧れを持つ。農水省はビジョンステートメントに共感した。説明会での聞き意識や職員方の雰囲気があると感じ、説明会に多く参加する。大学での勉強で環境と歴史について学んでいたので環境省にも顔を出す。



自分の肌感覚で農水省と環境省に絞っていた。経産省は半ば諦めつつ説明会に参加した。



自分の立ち位置ややりたいこと、面接で勝てそうな領域で勝負することを考慮した結果、官庁訪問で経産省・農水省・国交省を回ることを決める。

・良かった点：自分が成し遂げたいことが何なのかを考えながら就活出来たこと。

・反省点：優柔不断であったこと。勢いで説明会に参加していたこと。

・工夫した点：自分のキャラ設定と勝てそうな領域で勝負したこと。

	経済産業省	農林水産省	国土交通省
1月	政策立案ワークショップに参加	説明会参加×2	何もせず
2月	説明会×2、座談会	政策立案ワークショップ、説明会×3	何もせず
3月	説明会×1	説明会参加×3、職員訪問	何もせず
4月		説明会×2	何もせず
5月	説明会×1、個別相談会×1	説明会×3	何もせず
6月	説明会・職員訪問	説明会×1	何もせず

橋本（文部科学省）

大学2年の秋ごろ、営業は苦手そう、できるだけ多くの人に影響を与える仕事がしたいという条件から公務員を考え始める。



大学3年の春に、その中でももっとも影響力が大きく、システムを構築することで根本から解決できる国家総合職を第一志望とする。



大学3年7月、未来を担う子どものために働きたい、進路選択の自由や学びの環境が困難の解決につながると考え文部科学省の説明会に行き始める。（インターンは応募するも落選）



ひとまず省庁を見てみたいという思いから、金融庁のインターン(3日間)に参加。
のちに勉強会を行う仲間を見つける。



大学3年9月、生活の困難に直接的に関わる厚生労働省に興味を持ち、説明会に参加。



大学3年1月、文部科学省の職員訪問（超重要）に参加するも手ごたえなく失敗。その後3か月以上メールを無視される。



大学3年2月、3つ目の官庁を決めたいと思い、文科行政も厚労行政も関わっている内閣府の説明会に行き始める。面白そうと感じる。



大学4年6月、内閣府よりは文部科学省のほうが関心を持っていたが、説明会での感触等から厚労省は1日目、内閣府を2日目に訪問することに決める。

- ・良かった点：教養区分で合格したことで、説明会に余裕をもって参加できた。
- ・反省点：もう少し早いうちからいろいろな省庁に回っておけば、新たな視点を得られた。
- ・工夫した点：顔を覚えてもらうために、できるだけ対面で説明会に参加し、質問を積極的に行ったり、必要に応じてお礼メールを送信した。

	文部科学省	厚生労働省	内閣府
12月	説明会×3	説明会×3	何もせず
1月	説明会×2、 職員訪問×1（失敗）	職員訪問×1	何もせず
2月	説明会×4、 職員訪問×1（失敗）	WS×1、職員訪問×1	説明会×2
3月	説明会×1、WS×1	説明会×1、WS×1	説明会×1
4,5月	説明会×2、WS× 1、 職員訪問×1（失敗）	説明会×4、WS×1、 職員訪問×2	説明会×8、懇談会× 1
6月	説明会×1	説明会×2、座談会× 2	説明会×4

高宮（環境省）

大学時代のバイトと民間就活での疑問、またコロナ禍で自身のやりたいことについて考えたときに、有事に人のために働くことに憧れ、国家公務員を目指す。



最も興味あった分野が地方創生であったため、それを軸に省庁を考え、総務省自治分野と内閣府を見始める



総務省自治分野中心に説明会や職員訪問などを通して、志望動機を深める



自身の視野が狭まっていることを自覚したため、地方自治という軸を中心にして他の省庁を見始める（環境省、国土交通省、農林水産省etc.）



環境省の説明会で職員の方の雰囲気惹かれて、第2の第一志望に



官庁訪問第1クールを終えて、総務省自治分野と環境省で悩みに悩み、特に職員の方の雰囲気などから環境省の方が自分に合っているという思いに至る。

・良かった点：官庁訪問ではありのままの自分を出したこと。直前期に、複数の省庁別自主ゼミに参加していたことで、結果的に様々な志望の人と志望動機などの話ができたこと。

・反省点：自身の志望動機をより深めるためにも、早いうちから色々な省庁の説明会などを見ておくべきだった。官庁訪問前に「何のために官庁訪問するのか」をもう少し明確にしておくべきだった。

・工夫した点：説明会などでも考えて質問を行ったこと。人事担当の人と積極的に話に行って覚えてもらった。

	環境省	総務省	内閣府
12月		説明会×1 官庁訪問	
1月			
2月		説明会×3、WS×2	説明会×1
3月		説明会× 職員訪問	説明会×1
4,5月	説明会×2	説明会×4、WS×1、 職員訪問×1	説明会×1
6月	説明会×2	説明会×2、座談会×2	説明会×1

【官庁訪問対策のすゝめ】

1.官庁訪問とは

国家総合職試験合格者のみが参加できる、省庁ごとの面接試験。これに通れば晴れて内々定となる。

2週間にわたって概ね終日、面接が行われる。3つまで省庁にエントリーすることができ、日替わりで訪問する。5クール制で第3、4クールまで残ることができれば内々定が確実となる。

(今年の例)		1日目		2日目		3日目
第1クール	6月22日	総務省	23日	金融庁	24日	農水省
第2クール	27日	総務省	28日	金融庁	29日	農水省
第3クール	30日	総務省	31日	辞退(金融庁)		
第4クール	7月 4日	総務省				
第5クール	5日	総務省	内々定			

2.内々定をもらうには

官庁訪問では志望動機・政策に関する意見などについてかなり深掘りされて聞かれます。そのため十分に対策をして臨むことが大切です。そこで説明会の使い方や面接の対策方法などをご紹介します！（*あくまで私見です）

①インターン・説明会（文責 佐藤）

まずインターン・説明会の参加には2つ意義があると思います。1つ目は知識をつけることです。業務説明を聞いたり説明会資料を使って自主的に勉強したりして知識をつけ、論点に関する自分の意見を持ちましょう。官庁訪問で意見を聞かれたときにそれを基に面接官と質の高い議論ができれば良い評価が得られます。また深く勉強してもわからなかったところを逆質問の際に尋ねると「良い質問だね～」と言ってもらえると思います。2つ目は採用担当と官庁訪問までにコミュニケーションをとっておくことです。面談イベントなどに参加して熱意を伝えたり、説明会で鋭い質問をして能力をアピールしたりすると官庁訪問がスムーズにいくと思います。なんなら省庁によっては、説明会などで内々定が決まる人がいると言われている省庁もあります。

ここでアドバイスを少々。まず、色々な省庁の説明会に参加してみましょう。意外にも興味がわいてきたり、逆に全然興味がわかなくて自分のやりたいことが明確になったりします。また1つの省庁に固執しすぎたり、知識が大幅に偏っていたりすると視野狭窄と思われかねませんので気を付けましょう。そして、僕の考えるベストなスケジュール感としては、秋ごろから最も興味のある1,2省庁にほぼ毎回参加し興味のある省庁にちょこちょこ行く、2,3月に官庁合同説明会なども利用してとりあえず全省庁を網羅してみる、そこから官庁訪問まで興味のある省庁に参加し

3つに絞る、といった感じです。とはいえ自分にあったスケジュール、志望省庁に適した利用を心がけましょう。

②自己分析（文責 橋本）

自己分析は就職活動を行うにあたって最も重要であるといっても過言ではありません！自分はどのような人間なのか、自分は今後どのようなキャリアを描いていきたいのか、これを知ることが自分の仕事選びにも直結します。では、ここでは自己分析をするうえで大切なことを2つ挙げたいと思います。

1. 就職活動の軸を見つける

よく聞く話かなとは思いますが、自分の軸を持っておくことはとても大切です。自分が働くうえで大事にしたい考え方を固めておくことで、第一志望だけでなく、併願先の決定にも役に立ちます。

例えば、私は「できるだけ多くの人に影響を与える仕事をしたい」という軸と、「生活や人生に困難を抱えている人を助ける仕事をしたい」という軸の2つを持って就職活動をしていました。その他にも「ワークライフバランスを重視した仕事がしたい」「教育分野で働きたい」など人によっていろいろな観点から軸を見つけることができると思います。

では、その軸を見つけるためにはどうすればいいのか、私なりの考えをお伝えできればと思います。私としては、「自分の過去の経験を振り返る」ことが有効ではないかと思っています。実際、志望動機には必ずと言っていいほどその基となる原体験と一緒に記入しますし、面接でもそこを深掘りされることが多いです。私も文部科学省の重要な面接で、志望動機に関して1時間も深掘りされ続けることがありました。自分の経験を振り返って、心を動かされたもの、印象に残っているものをいくつか挙げ、そこから自分の軸となるものを取り出せると良いです。

2. 「できること」を考える

人間だれしも得意なことと不得意なことがあります。一方で、自分のやりたい仕事、やりたくない仕事もあるかなと思います。その中で、私は「できること」をまずは重視するべきだと思っています。自分にとって得意なことであれば、そもそも仕事が比較的楽ですし、それが自信に繋がることもあります。自分ができることの中で、かつ自分がやりたいことを当てはめて考えると志望先が決まりやすいのかなと思います。加えて、それがすなわち自身の強みにもなるため、長所が仕事とマッチするという点でも良いです。ただ、総合職は基本的にジョブローテーションを行っていくので、必ずしも自分の得意な仕事ができるとは限らないのは注意が必要です。

では、「できること」を見つけるためのアドバイスを。自分のことを自分だけで理解することはかなり難しいので、周りの友人や家族に、自分のいいところやどんな人だと思うか聞いてみてください。自分では気づいていなかった強みや、反対に弱みがわかることもあるのでおすすめです。

自己分析がしっかりできれば、面接でも自信をもって自分の良さを伝えられます。自分が省庁で働くことの価値を職員に示すことができるように、早いうちから自己分析を進めてみてください！

③自主ゼミ・勉強会（文責 長井）

これまで説明会で集めてきた情報や自己分析の成果を他の受験生と共有し、ブラッシュアップすることが自主ゼミ・勉強会の目的です。特に志望動機を共有してお互いに質問しあいましょう。自己分析を経て練られた志望動機が客観的に見てもらえることでさらに良い志望動機が出来上がります。また他人の志望動機を質問することでこれまで考えてこなかった事などに触れることが出来るだけでなく、面接官がどのようなポイントを聞きたいのか、どのような回答が欲しいのかを体験することが出来ます。

また、自身が興味を持ってこなかった分野についての知識も増えるので総合職として持つべきである「広い視野」を得ることが出来ます。

上記に加えて、自主ゼミや勉強会で共に切磋琢磨した友人は心細くなる官庁訪問で心強い仲間になります。官庁訪問においてこれは精神安定に寄与するでしょう。

参加する際に特に意識することは謙虚であることです。異なる価値観を持つ人たちと政治的な話をする事が多くなるのが自主ゼミ・勉強会です。自分の価値観や考え方だから、論理的に考えると違うと思い

④そのほか（文責 佐藤）

職員訪問なるものがあったりなかったりします。ある省庁では採用担当からお誘いが来る、お願いすればセッティングしてくれる、お願いしてもやんわり断られるという3種類の人間がいたそうな、、、どんな職員を訪問したいか希望を出せる場合は、色々なことが聞きやすい若手職員、関心分野の課室の職員、〇〇な経験をしたことのある職員など、訪問の目的を考えて選びましょう。説明会で聞けないことを聞ける一方で、採用担当からの刺客である場合も大いにあるのでアピールもできると思います。模擬官庁訪問として利用するのもありだと思います。

3.官庁訪問に向けて今やるべきこと

①官庁訪問に関する情報収集

仕組み・省庁ごとの特色・スケジュールリングなど、今のうちから官庁訪問に関する正しい情報を入手する。省庁ごとの特色などは調べても入手しづらい情報だと思うので、採用担当に直接聞く、または聞きづらければ内定者やTACの講師の方に聞くのも手だと思います。それらの情報を基に、6月に向けて日々の過ごし方を少しずつ変えていきましょう。

②説明会に行く

正直なところ、この時期にこういう勉強を始めて官庁訪問に備えろ！とかいうほど具体的にやるべきことはないですし、それほど切迫した時期でもないです。でも逆にとりあえず説明会には行っておけ！という時期だと思います。というのは興味を広げて訪問省庁の選択肢を増やしたり、この時期から採用担当に顔を売っておいたりすると有利だからです。さらに、面白いと思った政策は楽しい範囲で勉強しておく、次の説明会で関連分野が出たときに鋭い質問ができるプラス、政策というものの勉強にもなるので良いと思います。なんにせよ、説明会に行け！でもがんばりすぎるな！と言っておきます。

【各試験区分の勉強方法】

【全区分共通：基礎能力編】

<各科目勉強法>

(1) 数的処理 16問

(2) 文章理解 11問

教養が出来なくて涙を呑むケースも少なくない基礎能力試験。しかし、苦手な人でもしっかりと戦略を立てて勉強すれば、得点を取ることは可能です。まずは得意・不得意を把握するところから！

<各科目勉強法>

(1) 数的処理 16問

数的処理に悩む受験生は非常に多いです。筆者（葛西）もその1人でした。一朝一夕で習得できる科目ではないからこそ、**毎日触れることを意識**しましょう。日々の積み重ねが一番の近道です。特に苦手意識の強い方は、闇雲に問題集に取り掛かるのではなく、判断推理・空間把握・数的推理・資料解釈に分けてそれぞれ演習してみましょう。年内&年明けは**3本立ての学習**をしていました。

(例：12月～2月の勉強スケジュール)

	判断推理	平面図形・空間把握・ 数的推理	資料解釈
月	位置×2・集合×1		
火	順序×2・命題×1	確率 90分	
水	発言×2・数量×2		
木	試合×2・真偽×1	速さ 90分	
金	対応関係×2		
土	操作手順×2		2問×2set (1set12分)
日	位置×2・発言×1	図形の計量 90分	

(例：直前期の勉強スケジュール)

毎日 1～2set	判断推理×2	平面or立体図形×1 数的推理×1	資料解釈×1
1set 5問を40分以内で解く！			

(i) 判断推理

- ・判断推理はコツコツと問題演習を積むことによって、苦手な人にとっても大きな得点源になりえます。数処センスが絶望的になかった筆者でも、**毎日触れる**ことで判断推理が好きになりました。
- ・頭から順番に問題集に取り組むと、類似問題の連続で飽きる&解き慣れてしまうので、各章から1～3問ピックアップして毎日解いていました。

(ii) 平面図形・空間把握・数的推理

- ・平面図形&数的推理は、**公式や解法**を身に着ければ意外と解ける問題が多いです。まずは講義やレジュメを確認して、基礎的な公式を暗記しましょう。さらに問題集で応用問題を解いてどんな問題にも対応できるようにすると良いでしょう。

・空間把握はセンスがやや求められます。筆者は空間的思考力があまりに乏しかったので、軌跡や折り紙など、かろうじて解ける単元に絞って演習していました。自分の得点源になる単元だけで勝負するのも戦略の一つ！全ての問題に正解する必要はないので、取捨選択してみるのもアリですよ。

(iii) 資料解釈

- ・数処が苦手な方でも**絶対に得点したいのが、この資料解釈**。
- ・筆者は、週末に2問×2set(1set 12分)を解いていました。慣れる前は制限時間をオーバーしても構わないので、自力で正解に辿りつけるようにしましょう。直前期は正確性とスピードを意識したいところ！

プラスα

- ・みなさんは自分の**得意・不得意**を把握していますか？

試験本番は時間との勝負。問題を取捨選択する力が必要になります。「全問解いて中途半端に終わるよりは、確実に得点できる問題をもぎ取るぜ！」という心意気で臨んだ筆者は、自分の得意・不得意を知るべく、**①確実に解ける◎問題②時間をかければ解ける△問題③本番潔く捨てる×問題を見極める**訓練をしていました。問題集に◎△×を書き込んだり、解答時間をメモしたりするなど、自分なりに分析してみましょう。

模試／過去問／本番当日も、まずは問題文を一通り読んで、◎△×問題の分類をしました。毎日数処に触れていたおかげで、「これ、問題集で見たことある！(^▽^)」「問題文からして苦手なタイプや(´ω;`)」など直感的に3分類できました！きちんと取捨選択できるか不安を抱いている方は、日頃から得意&不得意がなにかを意識して演習してみてください。

(2) 文章理解1 1問

数的処理に苦手意識のある方は、文章理解での失点は最小限にしたいですね。「ここで1点取って、あとは数処でちょこちょこっと稼ぐだけ！」という戦略もアリよりのアリです。数処が苦手でなくても、ミスはMax2問に抑えたいところ。ただし正確性を意識して時間をかけすぎると、数処に使う時間がなくなるので**時間配分だけは忘れずに！**余力のある方は、年内からスピードを意識した演習に取り掛かりましょう。

(例：年内～直前期の勉強スケジュール)

週に 1～2set	現代文×2 (読解×1、並び替えor空欄補充×1)	英文×4 (読解×3、並び替えor空欄補充×1)
1set 6問を30分以内で解く！ (慣れる前は40分でもOK)		

(i) 英文7問

- ・英文は文章読解5問、並び替え1問、空欄補充1問です。
- ・苦手な人は、大学入試向けの参考書or問題集を買ってきて、文法の知識が抜けているのか、単語の知識が抜けているのか等を確認して対策をしましょう。
- ・苦手意識がそこまでない方も、**並び替え問題**には慣れておいた方が良いでしょう。
- ・並び替えについては**指示語**に着目して読むと良いでしょう。
- ・英語試験による加算があるのでTOEIC、TOEFLの勉強も平行してやると効率的かなと思います。(ただ年明け以降どんどん忙しくなり、TOEICと国総模試の日程が被るかもしれないので年内にスコアは取っておくべきです！)

(ii) 現代文4問

- ・現代文は文章読解2問、並び替え1問、空欄補充1問です。それぞれ得意不得意があると思いますが網羅的に演習すると良いでしょう。
- ・文章読解は書いてあることをしっかり追っていくことが大事です。また、文章全体の言わんとしていること(マクロ)と、各文が言わんとしていること(ミクロ)の双方を意識して、読解するように心がけると良いと思います。
- ・並び替えについては、指示語や言い換えに着目して読んでください。

(3) 知識分野1 3問

出来れば一部の科目を除いて深入りしたくない分野です。数的処理・文章理解で確実に得点が狙える人はほとんどやる必要は無いですが、自信のない人は**科目を選んで取り組む必要**があります。高校までに学習した科目だけを抑えて、一度も触れたことのない科目は捨ててもOKです。筆者は直前の1か月半前から対策を始めましたが、7割得点できました。短期集中の暗記科目なので、年内に急いで対策する必要はないかと思います。

対策方法としては、**インプットに時間をかけすぎない**ことが大切です。既習科目の講義を全て視聴する必要はありません。(何より講義数が多すぎる…。)

V問題集を解いて、インプットの補正をすると効率的です。筆者は**V問題集の国家系試験種の問題のみ**を解いていました。(国家一般・裁判所・国税など)類似問題も多いので、講義やテキストでOからインプットするよりも、V問題集を活用するとイイですよ！

時事については、直前の暗記で太刀打ちできるので、全問取り組み、3問中2点以上は獲得したいところです。コスパ良科目！

(i) 時事3問

- ・時事対策は官庁訪問対策にもなります。隙間時間にテキストを読みまくりましょう。
- ・2月ごろに発売される『速攻の時事』を使って勉強する学生が多い印象です。
- ・『速攻の時事』を読んだうえで日頃ニュースをみて関心を広げることも必要です。最終的に、官庁訪問や人事院面接で興味のあるニュースを聞かれることもあります。
- ・TACでも直前期に**時事対策講座**が開催されるので出席し、試験に狙われそうなポイントをマスターしておきましょう。
- ・筆者（葛西）はNHKの「解説委員室」<https://www.nhk.or.jp/kaisetsu-blog/>を毎日チェックして、移動時間を有効活用していました。端的にまとめられているのでオススメです。

(iii) 自然科学3問

- ・高校までやっている科目以外はやる必要は無いかなと思います。
- ・物理、化学、生物、地学のなかで一科目出題されない科目があるので気を付けてください。
- ・とはいっても、意識することとしては、社会常識に照らし合わせて、明らかに間違っている選択肢は排除できるようにしておくといことです。

(ii) 人文科学4問

- ・高校でやっている科目以外は取り組まない方がいいかなと思います。日本史・世界史は範囲が膨大で一問しか出題されないため非常にコスパが悪いと言えます。出そうな分野（近現代など）に山掛けすることでもいいかもしれません。
- ・例外として**思想**はめちゃめちゃオススメです。量があまり多くない上問題も難しくない可能性が高いため、得点が期待しやすいです！！講義を見て、レジュメを繰り返し読むだけで得点できました。神コスパ！！

(iv) 社会科学3問

- ・法律・経済・政治については、専門科目の学習である程度カバーできます。法律or政治国際の方は、経済の講義をちらっと見ておく役立ちます。細かい知識は気にしないで、「ふ〜ん、経済ってこういう仕組みなのね。」くらいのスタンスで大丈夫です。選択肢に矛盾した文章が含まれているケースが多いので、用語を知らずとも得点できたりします。

【法律区分編】

I. 必須科目勉強法 II. 選択科目勉強法 III. 二次試験勉強法

法律科目勉強法：自分で全範囲を講義できるようになろう！

I. 必須科目：極論、満点取れば選択科目を勉強しなくても充分合格点を超えます！最も力を注ぐべき科目たちです！

※公務員として前提となる知識で、働くうえでも特に重要なので当事者意識を持って勉強することをおすすめします！

<各科目勉強法>

（１）憲法

- ・高得点（7問中5問以上）を目指します。何度も反復し、重要な条文は〇条〇項かまで覚えると論述試験にも役立ちます（条文を丸暗記する必要はないかも）。判例は結論だけではなく理由付けも覚えましょう。理由付けの一部分だけが異なる選択肢のパターンが多いです。

- ・人権分野：条文の内容の暗記は当然ですが、その語句が何を意味しているのかについて判例・学説を覚えましょう。判例については特に理由付けのひっかけが多いです。

- ・統治分野：細かく覚えることが多いですが、繰り返し問われやすい部分があるので過去問演習が重要です。文字だと分かりづらいことがあるので、自分なりに図解してみると良いかもしれません。

（２）民法

- ・可能な限りの得点（12問中9問以上）を目指します。条文は分かりづらいですが、民法はとても身近なので意外ととっつきやすい科目だと思います。一人暮らしの経験がある方は物権と結び付けたり、コンサートに行ったりする方は債権と結び付けたりして覚えていきましょう。

- ・テキスト1周で基礎知識をつけて3周目くらいで完成させることを目標に学習を繰り返した方が良いです。似たような話が何度も出てくるので、その都度確認のためにテキストを読み返しましょう。

- ・総則・物権・債権・不法行為法：抽象的な文言で終わっている一般条文（1条2項・709条等）と具体的な要件が挙げられている条文（即時取得など）があるので、前者はその解釈を、後者は要件の暗記や適用タイミングを中心に覚えていきましょう。

- ・相続・家族法：民法の中でもかなり特殊な部分です。条文知識で選択肢の判別が可能なので、テキストを読み込むことを中心に学習しましょう。近年重要な判例がいくつか出ているため、近時の判例を中心に覚えましょう。

（３）行政法

- ・可能な限りの得点（12問中9問以上）を目指します。判例が非常に多く、争点や結論だけでなく理由付けや論理構成も正確に覚える必要があります。法律の性質上、自身が志望する省庁等が関係することも多いので当事者意識を持った学習をすると覚えやすいです。ま

た、過去問を解いて解説を読み、テキストに追加の知識を書き加えて行くことをオススメします。

- ・行政法総論：基本的な知識や概念を必ず暗記しましょう。ここでの知識が他の分野の理解に大きく関わってきます。選択肢として問われることもあるので十分な学習を心掛けましょう。

- ・行政手続法・救済法：総論の知識を踏まえ、法律の目的から各条文の要件まで正確な暗記が必要です。判例を先に暗記することで大枠を理解し、細かい部分は後から少しずつ覚えていくと良いかもしれません。

- ・行政組織法：あまり出題は多くありませんが、失点は避けたいところです。他の分野の判例を学ぶ上で既に触れていることが多いので、各分野と結び付けて覚えていきましょう。

Ⅱ. 選択科目：自分がとつきやすい科目を選ぼう。あまり時間を使いすぎないように。

＜科目全体＞

- ・憲法・民法・行政法よりも重要度は低いです。そのため、主要科目の学習時間を減らすずに、いかに効率的に勉強できるかが大切になります。

- ・筆者（谷口）の選択は、国際法・刑法・商法。

理想は全科目勉強し、当日にその場で自信のあるものを選ぶのが良いですが、現実的ではありません。実際には3科目勉強し、9問中6問以上の得点を目指すことになると思います。

- ・問題集を使う場合は、近年のもの（過去5年程度）を中心に勉強しましょう。あまりに昔のものを解くことは時間的にも、効率性からもあまり好ましくありません。

- ・2月は殆ど論述対策に使うことを考えると、1月までにはテキストを一周できていると安心できます。3月の再勉強時に復習することを念頭に置いて勉強を進めましょう。

＜勉強を始める時期＞

- ・大学等を通して一度も触れたことがない人

知識量が要求される法律系科目は12月上旬くらいからは受講し始めておきたいところです。今から始める人でも2か月あれば十分に基礎知識は入ります。

- ・少し触れたことがある人

12月下旬頃からでも間に合います。必要以上に時間を使いすぎないように注意しましょう。

※筆者（谷口：法学部）は1月中旬から受講を始めました。参考にされる方は今年から試験日が2週間前倒しになっていることを留意してください。

＜各科目勉強法＞

刑法

- ・頻出判例と近年（直近10年程度）の重要判例を覚えておけば、1問はとれます。条文の構成要件や解釈まで覚えられるとかなり安定すると思います。

- ・問題集は直近のものを中心に解きましょう。

- ・直前期は予想分野を中心にテキストを読み、過去問で間違えた部分をチェックしておくの良いと思います。

労働法

- ・覚える条文数が少なく、複雑な学説の対立も少ないので、高得点が狙える科目です。きっちり3点取りたいところです。
- ・頻出の条文と判例を取りこぼしなく覚えていくことが大切です！同じ判例が繰り返し出題されるので、過去問演習や模試をしっかりとこなし、テキストとレジュメで知識を定着させると良いでしょう。過去問には出ていない、近年の重要判例の暗記も忘れないようにしましょう。

商法

- ・民法の特別法であることを念頭に学習しましょう。判例は商法特有のものもありますが、民法で既に触れたものもあるので**民法の復習をしつつ学習を進めましょう**。
- ・大半が会社法からの出題です。まずは法人の種類を覚えましょう。次に関連する判例の構成を覚えておくと高得点を狙えます。
- ・1問は手形法との融合問題が出やすいです。満点を狙う場合は手形法分野の知識が必要となりますが、3問中2問で妥協し、主要科目に学習時間を使うことも戦略として視野に入ります。

国際法

- ・2次試験の論述として選択することが可能な科目です。主要科目が苦手な場合は国際法を2次試験用の保険として使うことも視野に入れて勉強しましょう。
- ・国内法とは異なる論理構成をしていますが、問われる知識はそこまで複雑なものではなく範囲は広いものの、充分高得点が狙えます。また、世界史が得意な方は近現代史の知識と結び付けることで判例の理解がしやすいのでオススメです。
- ・直前期は総まとめ講義を利用して重要事項や判例を中心に復習しましょう

経済学（過年度）

- ・**グラフの読み取りなど数学的な理解が必須**だけに、得手・不得手がはっきりと分かれてしまう分野です。数学的な考えが得意な人は短期間で理解しやすいです。東京都・横浜市以外の地方上級も併願しようと考えている人は、選択をおすすめします。必要な数学的知識は高2の微分までなので、文系だからできない、ということはありません。
- ・苦手意識の強い人や全くの経済初学者は、無理に時間と労力を割かず、得点しやすい分野（経済史、経済事情のような暗記中心の分野）のみ覚えて、1点を確実に取りに行くのも手です！

財政学（過年度）

- ・経済学と異なり計算等は必要ないので、勉強しやすいです。**完全に暗記科目です**。
- ・講義を受けて一通り過去問をまわした後は、TACの模試で出題された範囲を中心に、テキストを読み込み、ノートにまとめるなどして対策するとよいです。
- ・本試験1ヶ月前に配布される経済事情のテキスト（経済財政白書のデータをまとめたもの）は、全ページ暗記する勢いで読み込みましょう！基礎能力分野の時事でも活きますと思います。
- ・予算制度や税制度などきちんと勉強しておくと、**政策論文や官庁訪問でも役に立つこと**があるのでおすすめです！

Ⅲ. 二次試験勉強法

＜総論＞

- ・一次試験で必要な知識があって初めて論述が書けるようになるので、まずは一次試験の過去問を解けるように知識を固めましょう。過去問を解く際に、なぜこの選択肢が間違っているのかを確認しながら解くようにすると良いと思います。
- ・論述方法は法的三段論法（問題把握→規範定立→あてはめ）に沿い、適切な接続詞を用いて文章を作成できるようにしましょう。特に、「どこが問題で」「何の条文を用いて」解決するのが重要となってきます。可能な限り正確な条文暗記をしましょう。
- ・自分で書いているだけでは独りよがりな文章となっても気づかないことが多々あります。必ず答練を利用し添削を受けるようにしてください。

＜科目別＞

憲法

- ・事例問題として出題されます。まずはどこが問題となっているのかを正確に把握しましょう。そして、何の条文が関係してきそうかを書き出して語句の解釈を書きます。最後に、具体的な事情を条文にあてはめることで論理破綻を起こしていないかを確認します。
- ・書けなかったところは知識が不足している分野です。必ずテキストで復習して次に活かしましょう

おすすめ参考書

『憲法』 芦部信喜（著）、高橋和之（補訂）（岩波書店）

民法

- ・事例問題として出題されます。他の科目に比べて論点が分かりやすく、知識があれば論述はしやすい科目であるように感じます。条文数や判例が多く正確な記述は難しいでしょうが、仮に詳しい条文数等を忘れてしまっても、どの条文・判例の話をしているのかについて他人が判断できるような論述を心掛けましょう。
- ・特に、物権なのか債権なのか/どの条文からくる請求権なのか/結論が問題の解答と適合しているかを中心に確認しながら記述しましょう。

おすすめ参考書

『基本講義債権各論Ⅰ 契約法、事務管理、不当利得』/『基本講義債権各論Ⅱ 不法行為法』 塩見佳男（新世社）

行政法

- ・事例問題として出題されます。他科目と異なり、その場での資料として多数の特別法が提供され、適切な条文をその場で選び出す力が必要となります。他科目以上に演習による訓練が重要となります。
- ・難易度そのものは他科目に比して易しめのように感じます。訴訟要件や各項目の定義を押さえておくことが重要。しかし、他の受験生も書き落としがちな部分でもあるので、必ず記憶しておく必要があります。

おすすめ参考書

『行政法Ⅰ』/『行政法Ⅱ』 塩野宏（有斐閣）

国際法

- ・事例問題として出題されます。近年はあまり複雑な問題の出題がないため、知識を確実にすることで十分に得点できます。
- ・難点としては、一次試験では3問しか出題されない都合上、学習時間の配分が難しい点が挙げられます。

おすすめ参考書
『演習プラクティス国際法』柳原正治、森川幸一、兼原敦子編（信山社出版）

『判例国際法』松井芳郎編集代表（東信堂）

公共政策A・B

・政策論文対策を流用することができるため、効率性を重視するのであればとても有用です。また、本番時にどうしても解けないとなった時の保険としても心強い科目と言えます。資料を参照していることを明確に示し、目的・方法・適切性等を多様な観点から検討し、答案に記述しましょう。

・Aは法律を用いた事例、Bは経済に関連した事例が提示されます。事前にニュースや政策を知識として用意しておき、その場で反映させましょう。

【経済区分編】

I. 必須科目勉強法

II. 選択科目勉強法

III. 二次試験勉強法

経済区分受講生と一口に言っても、自分が今どのような状況なのかによって選択すべき科目や取るべき勉強法、割くべき時間は変わってくると思います。

私が当時置かれていた状況を以下にまとめますので、当記事はこの点を踏まえてお読みいただき、参考にできる部分のみ参考にいただければ幸いです。

〈当時の状況〉

- ・通信講座受講生
- ・経済学部出身で、経済理論や財政学は齧る程度に大学で勉強したことがある
- ・専攻分野の研究で統計学・計量経済学の知識を使うことがあった
- ・教養区分と併願していた（しかも教養区分の志望度はかなり高かった）ため、択一の勉強を始めたのは1月、専門記述の勉強を始めたのは1次試験終了後

I. 必須科目の勉強法

とにかく時間がない中で気を付けたのは「経済理論を固める」ことでした。経済理論で8～9割の問題を正解できる力があれば、財政学・経済政策、経済事情でも5問中2～3問正解するだけの力を得られると思います。

（1）経済理論

必須科目の中でも最重要の科目です。経済理論は専門択一試験で16問出題されますが、これは必須科目31問のうちの半分をしめるウェイトです。また、二次試験においても唯一の必答問題となっています。さらに、財政学や国際経済学など、経済理論の知識を基盤として成り立っている科目は多いです。これらの点を意識して早めにロジックを理解し、安定して得点できるように心がけることが大切です。

（教材）

TACの講義、テキスト

自分でも参考書や問題集を何冊か持っていましたが、いずれも使いませんでした。

（勉強法）

①講義を聞く

TACは講義と問題集で分野の区切り方が違うので、この段階では演習は行わず、まずは一通り講義を聞くようにしていました。

②問題集を解く

講義が聞き終わったら、「経済理論基礎」の問題集について

まず1周目を解く

→1周目で間違えた問題について2周目を解く

→2周目で間違えた問題について3周目を解く…

と繰り返していき、解けない問題がなくなったら、応用の問題集に移って1周目から同じことを繰り返していました。応用の問題集も解けない問題がなくなったら、択一演習と択一模試について同じように解き直していました。

(2) 財政学・経済政策

私が本格的に勉強を始めたのは1次試験が終わった4月下旬のことでした。しかし、2次試験では財政学と経済政策のうち最低でもどちらかは使うことになるので、早めに対策するに越したことはないと思います。時間に余裕がある場合は講義が始まり次第、対策を開始するようにしましょう。

以下には、私が財政学の勉強を開始してから、知識を粗方インプットし、記述の勉強に取り組む掛かるまでに取った勉強法を記載しておきます。

(教材)

基本的にはTACの講義、テキストで十分です。

分かりづらい部分があれば、『入門 財政学』『入門 公共経済学』（いずれも土居丈朗著）を参照するといいいと思います。

(勉強法)

①講義を聞く

去年は講義スケジュールがかなり遅めに組まれていました。今年も講義スケジュールをよく確認するようにしてください。

②キーワードを暗記する

財政学のテキストには、章末に単語のチェックテストがついていると思います。そこで問われる単語をすべて暗記すると知識面で自信を持って回答できるようになります。私は、テストの解答欄に答えをオレンジペンで写し、それを赤シートで隠して暗記したり解いたりしていました。

③問題集を解く

経済理論と同じやり方で進めていました。

経済理論のロジックが定着することで格段に解きやすくなるので、最低でも経済理論基礎の演習は一通り終わっている状態で解き始めるといいと思います。

(3) 経済事情

必須問題としては5問、選択問題としては経済史と合わせて3問出題されます。必須問題の5問はオーソドックスな時事問題、選択問題は若干マニアックな問題が出題される傾向にあります。

私は、専門択一对策としては十分な時間を割けなかったのですが、教養区分の時事対策で得た知識が経済事情にも生きたと感じています。以下には私が教養区分の時事対策で取った勉強法を記載します。

(教材)

TACの講義、テキスト+新聞（私の場合は日本経済新聞を電子版で購読していました）

(勉強法)

経済事情でも、TACの講義を聞き、問題集を解くことは解き方のコツを掴むうえで有用だと思います。しかし、時事問題の側面がある以上、TACのテキストだけでは知識面で不足が生じてしまいます。そこで私は

- ・新聞を読む
- ・時事について友人と話す（民間企業を目指す友人でも構いません）

といったことをしていました。

「速攻の時事」を解いたり白書を読んだりするとよい、という意見も聞きましたが、私はどちらもやりませんでした。しかし、経済財政白書や通商白書からの出題が多いことは事実なので、時間に余裕があれば白書に目を通すのも1つの手だと思います。

（４）統計学・計量経済学

統計学・計量経済学は、二次試験にも出題されず経済理論の応用も利かないため、捨てようと思っている人もいるかもしれません。しかし、40問中5問というのはそれなりの配点ですし、公式を覚えれば確実に得点できる分野なので、捨てるのはもったいないです！

（教材）

TACの講義、テキスト

初学者で1からきちんと学びたい人や、TACの問題集以外にも演習したい人は、『統計学基礎講義』（秋山裕著）を購入するといいいと思います。

（勉強法）

経済理論と勉強の進め方は同じでした。

ただ、分野ごとに出題のされやすさにムラがあるので、優先順位をつけるといいいと思います。まずは一通りの統計学＋計量経済学のうち、単回帰分析と重回帰分析を確実に得点できるようにすると良いです。

Ⅱ. 選択科目の勉強法

専門択一の選択科目は、経済史・経済事情、国際経済学、経営学、憲法、民法の5科目から各3問用意されており、任意の3分野9問を選んで回答する形式になっています。たいていの人は経済史・経済事情、国際経済学、経営学を選ぶと思いますが、私は憲法の講義を聞いていた時期があり、かつ国際経済学が苦手だったため、**経済史・経済事情、経営学、憲法**を選択しました。

選択科目の決め方としては、5科目とも講義を聞く→苦手に感じた2科目の勉強をやめ、残りの3科目を選択するつもりで演習をスタートさせる、という決め方が理想かと思います。1回目の択一模試までに何を選ぶかを決められるといいいでしょう。

どの科目を選択するにしても、TACの講義、テキストで十分対応可能です。

（１）経済史

勉強法としては暗記ゲーです。経済史のみを見ると1～2問しか出題されず、その割に範囲が膨大です。初学者、または時間がなければ捨てるのもあります（私も試験に向けて改めて勉強することはしていませんでした）。あるいは、大学受験で世界史や日本史を選択した人は、自分がやったことのある分野に絞って勉強してもいいと思います。

（２）経営学

本番では3問出題されますが、そのうち2問を確実に取ることを目指して勉強すると良いと思います。

経営学は出題されやすい分野がはっきりしているので、

- ・テキスト巻末の問題集を徹底的にこなす
- ・頻出の分野で苦手なものは、テキストの内容を写したまとめノートを作る

といった方法で対策をしていました。暗記科目で、勉強期間に比例して成績が伸びるわけではないので、演習を始めるのは年明けからでいいと思います。

(3) 憲法

現時点で講義を1度も聞いたことがないならお勧めしません。というのも、講義、テキストは法律区分生と同じものを扱うので、それなりに分量が多いからです。しかし高校までの公民の勉強で身に着けた知識を活かすことができるので、経済系の選択科目が苦手なら一考の余地はあるかと思います。

折角選ぶなら3問中2問は取れるようになりたいところです。

辻本先生の講義を視聴していたのですが、内容の濃い講義だったので、講義を繰り返し流し聞きするだけでもかなりの勉強になりました。問題演習に関しては、辻本先生は問題集のやった方が良い問題をピックアップしてくださる方だったので、言われた問題をこなしていました。問題集を一通りやる必要はありません。

Ⅲ. 二次試験の勉強法

二次試験は経済理論が必答で、その他に財政学、経済政策、公共政策A、公共政策Bの中から2科目を選ぶ必要があります（ちなみに、その2科目を両方とも公共政策とすることはできません）。私は1次試験までは択一の勉強に集中し、1次試験終了後から2次試験の勉強を始めましたが、そのせいで答練を提出することができなかったで、遅くとも3月には対策を開始すると答練をきちんと活用できると思います。

★勉強法について

私は公共政策を選んだので経済政策の勉強はしなかったのですが、経済理論と財政学については以下の手順で勉強していました。

①択一を完璧にする

そもそも択一で解けない問題は記述でも解けません。少なくとも答練に手を付けるのは択一を7～8割とれるようになってからの方が良いと思います。

②答練を解く

専門記述は、内容はもちろん、形式面や解答用紙の使い方で注意すべきポイントやコツが多いです。特に数式の書き方はどの程度まで許容されるかが分かりづらいと思います。そのようなポイントを掴むために、プロである講師の先生の添削は必須といえます。万一提出期限までに答練に取り掛かれないのだとしたら、後述する専門記述模試は絶対に受けましょう。

③過去問を解く

テキストには15年分の過去問が掲載されていますが、自分で解くのは2～3年分が良いと思います。自分で手を付けられない分は講義の解説を聞き、書くべきポイントを押さえましょう。

④試験委員の先生の著作を読む

正直私はここまで手が回らなかったのですが、経済理論、財政学、経済政策の問題は毎年委員の先生のご専門が反映されます。特に後半の小問は委員の先生の著作からそのまま出ることもあるので、読んでおくと吉かと思います。ちなみに、試験委員の先生が誰になるかは2月前後に人事院から発表される官報に掲載されます。TACの講義内でも教えてもらえるはずなのでチェックするようにしましょう。

★記述模試の使い方について

まず、どれだけ実力が足りないとしても絶対に受けた方がいいです。模試は偏差値と順位が出るため、専門記述における自分の立ち位置を把握できる唯一の機会です。さらに添削の中で自分の答案の良かった点や、悪かった点をどのように改善していけばいいのかが示されるので、この先2か月の勉強方針が立てやすくなります。私も模試があった3月時点で勉強を始めてすらいなかったで受けるか迷いましたが、受けて良かったと思います。

そして受けたうでの活用法ですが、模試で解いた問題は本番直前に再度解き直し、自己採点するのがいいと思います。そこで最初書いたときと比べどこが良くなったか、模試で指摘された部分は改善したか、それでも足りない部分は何か、などを見比べると、その点を本番でも気を付けられるからです。

【政治・国際区分編】

- I. 必須科目勉強法
- II. 選択科目勉強法
- III. 二次試験勉強法

講義を受講し、問題演習を繰り返すことが専門択一の勉強法の基本となります。問題集は最低でも2周はしましょう。2次対策は基礎が固まってから取り組もう！

I. 専門択一必須科目勉強法 ＜必須科目全体＞

（１）政治学…テキストに出てくる人物とその思想・提唱した概念・著作などを対応させて、その人物が何のグループに所属するのかを体系的に整理しながら問題演習をしていきましょう。（例：J.S.ミル―質的功利主義―代議制民主主義―『自由論』―19世紀イギリス）どれか一つの語句を見ただけですぐに関連する語句が頭に浮かぶようにするまで繰り返しやり込みましょう。英語での出題が多いので、問題集等で慣れておく必要があります。

●おすすめの本（TACのテキストの補助的役割）

- ・久米郁男著『政治学』（有斐閣）
- ・川崎修著『現代政治理論』（有斐閣アルマ）
- ・川出良枝『政治学』（東京大学出版会）
- ・石川真澄 他『戦後政治史 第四版』（岩波新書）

（２）国際関係…政治学と同様に人物と関連する語句を整理して覚えましょう。まずは、TACのテキストに記載されている内容を抑えることが最優先です。加えて、国際政治上の理論（リアリズム、リベラリズムとは何か、国際政治の3つのレベルなど）も説明できるようにしましょう。さらに近代史とリンクさせながら学習すると覚えやすくなります。国際関係は問われる時間的な幅は広くないですが、その分詳しく聞かれるので整理しながら覚えていきましょう。また、多くの人が2次試験の時にも選択する科目なので、ただ暗記するだけでなく説明できるようになることを目指しながら学習しましょう。

●おすすめの本（TACのテキストの補助的役割）

- ・ジョセフ・ナイ&デイヴィッド・ウェルチ著『国際紛争 第10版』（有斐閣）
専門記述対策：時代の潮流を問うものも多く、特に第3章から5章が参考になる
- ・最上敏樹著『国際機構論講義』
国際機構の本質に迫る一冊。

（３）憲法…5問中4問取ることを目標にしましょう。憲法は必須科目の中でも得点源になります。人権分野に関してはある事件や訴訟が違憲か合憲かを覚えるのは基本ですが、実際

の問題では違憲か合憲かよりも**判例の内容**（何条に違反したのか、合理性の基準は何かなど）が問われるので理由付けを含めて判例をしっかりと覚えましょう。

統治分野に関しては基本的には暗記です。自分で図解しながら覚えていきましょう。

Ⅱ. 専門択一選択科目勉強法

＜選択科目全体＞

1次の専門択一40問中15問が選択科目です。行政学5問、行政法5問、民法3問、国際法5問、国際事情3問、財政学3問、経済学3問、経済政策3問の30問の中から好きな組み合わせで15問選択して解答します。一科目選んだらその科目の問題を全て解答しなければならないわけではなく、例えば行政学を3問だけ答えるといったことも可能です。

国際事情と財政学は全員選択するべき科目であると言えます。しかし行政学、国際法、行政法の中から何を選ぶかはそれぞれの相性次第だと思います。勉強の仕方は基本的に必須科目と同じです。

＜勉強を始める時期＞

とにかく必須科目を終わらせることを優先してください。初学者は12月中に始められるのが理想ですが年明けからでも間に合います。既習者や必須科目講義視聴済みの方も、主要3科目の優先度が断然高いので、あまり年内は深追いしない方が良いでしょう。

＜各科目勉強法＞

（1）**行政学**…政治学で学んだ内容と結びつけながら学習することができる科目です。政治学と行政学のどちらにも登場する人物がいるので照らし合わせながら学習しましょう。基本的には、テキストと問題集をひたすら往復して、インプットとアウトプットを繰り返しましょう。近年作問者が変わり、問題が単純化したように感じました。過去問の中には全く手の出ない問題もありましたが、気にせず近年の問題を繰り返しましょう。

（2）**国際法**…テキストが細かいところまで書かれていて覚える語句も多く一度の講義だけでは覚えるのが難しいと感じると思います。しかし、問題演習をしてみると繰り返し出題されている頻出トピックがわかってくるようになるので問題演習をしながら知識を定着させていきましょう。試験直前は、**演習の問題や模試、総まとめ講義で触れられている重要事項や重要判例**を重点的に復習しましょう。

（3）**国際事情**…講義は1回だけなのに、出題は3問という神コスパ。国際事情のために特別な勉強を机に向かってするよりは普段の生活の中で意識してニュースを見て情報収集しておく方が良いでしょう。過去問を確認して問題の形式だけ確認し慣れておいてください。余力のある人は、今年の有名スピーチやホットトピックの英文記事に目を通しましょう。

（4）**財政学**…意外と暗記科目です。予算の数字を機械的に覚えてください。2月に始めても余裕で間に合う科目です。問題集を解きまくるよりも、**TACの模試で出題された範囲を中心に、レジュメを読み込み、ノートにまとめる**などして対策することをオススメします。

（5）**行政法**…可能な限りの得点（5問中4問以上）を目指します。概念や判例は覚えるのが難しそうですが、憲法と同じように判例中心の勉強で得点が安定する科目です。分量が少し多めなので早めに講義まで終わるといいかもしれません。問題集をひたすら解く科目です。

Ⅲ. 二次試験勉強法

<総論>

・まずは択一を固めよう！

年内は、択一对策で基礎的な人名や理論を暗記していきましょう。理論や背景を文章化する練習は、年明け以降でも間に合います！！基礎知識に自信がない人は、まず択一を固めましょうね。

・答練を提出しよう！

論述の講義を視聴したら、答練を提出しましょう。1月末までに提出しきるのが、理想のスケジュールです。(提出期限を守らないと採点してもらえなくなるので注意です。)何も分からないままテキストに書き始めると時間の無駄になってしまうので、出題範囲をしっかりと学習してから臨みましょう！答案返却後は、暗記事項の漏れや文章の整合性をチェックしましょう。

・模試&過去問を活用しよう！

答練に加えて、模試と過去問演習で専門記述用の知識を上乗せしていきましょう。過去問の類題が出題されることも少なくないので、余力のある人は過去問演習に時間を割きましょう。また、模試では話題のテーマやここ数年の傾向を踏まえた問題が出題されるので、必ず受験しましょう。自分の立ち位置や、解答の良い点・改善点、時間配分の良し悪しなど、本番で役に立つ学びを得ることができます。知識不足で自信がなくとも受けるべき！！

<科目別>

(1) 政治学

択一に比べて出題範囲が限定されるため、初学者でも選択しやすい科目です。頻出分野を優先するなど、分野ごとに勉強量に傾斜をつけて学習することで効率よく勉強できるようにしていました。政治過程・民主主義など、頻出テーマの用語説明を自分の言葉でまとめて暗記すると、本番も焦らずに書くことができます。また、政治学は試験委員の先生の興味関心や時事、過去の出題によって傾向が大きく変化します。直前期は試験委員の先生の著書を読んで答案に書くべきことを分析してみると良いです。

(2) 国際関係A・B

政治学同様、出題範囲が限定されます。理論を説明したうえで、それに当てはまるor相反する実際の歴史的出来事で補強するパターンが多いです。まずは択一对策の時に、理論・提唱者・背景・影響をセットで暗記しましょう。知識が定着してきたら、自分の言葉でまとめる練習をしましょう。

また、国際関係は政治学と異なり、過去問から類題が出題されるケースは少ないですが、過去問演習によって事実の因果関係や理論が理解しやすくなります。単純暗記ではなく、歴史の流れを意識して理論を抑えることをオススメします！

国際関係Bは、英文での出題になりますが、「和約して要約→理論の説明と当てはめ」という流れが一般的なので、国際関係Aと対策法を変える必要はないと思います。プラスαでやることを挙げるなら、キーワードの英訳を覚えることですかね。

(4) 国際法(過年度資料抜粋)

過去問演習を中心に学習していました。過去問を解く→解説や模範答案をみる→抜けていた論点や判例を踏まえながら自分なりの模範答案を作成、この繰り返しで対策していました。過去問は記述テキストに載っている限りで2~3周しました。憲法と同じく、重要判例は択一・記述共通で出題されるので、判例の背景事情や判決、要件は頭に入れるように意識しましょう。

(5) 行政学

行政学自体範囲はそこまで膨大でないように感じますが、深いところまで答えが要求される科目です。大学で専門に学んでいる方が選択する科目と考えてもらいたいと思います。ただ、解答しやすい年もあるためすべて切り捨てずともいいと思います。対策は他の科目と同じように択一テキスト、記述テキストを中心に行うことが大切です。有名な行政学者（馬淵、西尾など）の本を読んでもいいかもしれません。

【専門区分】LAの勉強スケジュール（12月～1月）

法律区分：谷口

時期	基礎能力	専門択一	専門記述
12月第1週	曜日ごとに分野を決めて、1日2問ずつ解いていた（苦手な分野は週2日にするなど調整）	受講：民法・行政法 （並行して問題集を解く）	なし
12月第2週		復習：憲法・民法・行政法 →テキストを白紙に再現できるように	
12月第3週	自然科学のみ受講し、少し（1週間に1回テキストを開く程度）	受講：国際法	憲法講義
12月第4週		復習：憲法・民法・行政法 →テキストを白紙に再現できるように	憲法の論証を覚え始める
12月最終週		国際法 →問題集をベースに復習	
反省点	特になし	特になし	もう少し早めに受講を始めていても良かったかもしれない

時期	基礎能力	専門択一	専門記述
1月第1週	曜日ごとに分野を決めて、1日2問ずつ解いていた（苦手な分野は週2日にするなど調整）	受講：国際法・刑法	憲法・民法講義
1月第2週		復習：憲法・民法・行政法 →テキストを白紙に再現できるように	民法講義 憲法・民法の論証を覚える
1月第3週	本番でどの分野に時間を割くかを検討し、効率的な勉強時間配分を模索した	刑法・国際法 →問題集をベースに復習	
1月第4週		受講：商法・刑法	
1月最終週		復習：憲法・民法・行政法 →テキストを白紙に再現できるように 国際法・商法・刑法→問題集をベースに復習	
反省点	分野の切り捨てはもっと後でも良かったかもしれない	特になし	特になし

政治国際区分：野里

時期	基礎能力	専門択一	専門記述
12月第1週	1日1問は必ず数的処理の問題を解くことを目標にする。 週末に未視聴だった数的処理の講義を見る。 文章題の講義を受講。	なし。 数的処理を終わらせることを優先するため専門択一には手を付けなかった。	なし。 1次試験終了後に勉強開始。
12月第2週	場合の数、道順の講義を受講。		
12月第3週	確率の講義を受講。		
12月第4週	資料解釈の講義を受講。 基礎能力演習を受けたが下から数えた方が早い順位だった。		
良かった点	数的処理をやらないよりはまし。		
反省点	もっと早くから勉強していればよかった。		

時期	基礎能力	専門択一	専門記述
1月第1週	帰省中のため何もしなかった		なし。 1 次試験終了後に勉強開始。
1月第2週	大学の試験勉強のため何もしなかった。		
1月第3週			
1月第4週	数的処理を 1 日 1 問解く	国際関係の講義視聴開始	
良かった点	得意科目の国際関係の勉強から始めたことで勉強の波に乗ることができた。		
反省点	大学の試験勉強に時間をとられてしまった。もっと早くから専門科目をやっておけば良かった。		

政治国際区分：葛西

時期	基礎能力	専門択一	専門記述
12月 第1～3週	数的処理：3本立ての演習。 ①判断推理→毎日2～4問 ②数的推理→週2で90分ずつ演習。 ③資料解釈→2問15分×2で演習。 文章理解：週1回1セット (現代文×2英文×4)を25分以内で解く。 知識科目：特になし	<u>必須科目</u> 視聴済みの憲法・政治学・国際関係は、それぞれ90分×週2で演習。(A・B問題を優先) +α 政治学の択一演習を解く。知らない人名ばかりで正答率最悪。萎えたけど、テキストに書き込みして暗記した。 <u>選択科目</u> 講義視聴を最優先!!! 年内に見終わるように、国際法&行政学を週1本ペースで視聴	なし
12月 第4週	年末年始は数処強化week! 3本立ては変えずに、解く時間&問題数を増やす。	何としてでも年内に視聴を終えるべく、必須科目<<選択科目の比重に変更。 動画視聴に飽きたら、必須科目の問題集をやる流れ。	政治学・国際関係A 講義視聴スタート
反省点	専門択一&民間インターン&バイトに時間を取られ、ノルマを達成できない日もあった。	嫌いだった国際法を後回しにしすぎて、年末に6本一気見することに。 バランスよく見ないともっと嫌いになる。 (国際法に罪は無い)	なし

時期	基礎能力	専門択一	専門記述
1月	12月と同じ。	<u>必須科目</u>：12月と同じ <u>選択科目</u> 行政学&国際法は、それぞれ90分×週2で演習。 (A・B問題を優先) テキストに掲載されていない人名&理論が多かったので、テキストに書き込みした。 結果、余白がなくなった。	政治学・国際関係ABの講義視聴。 1月中に答練を全て提出するために、週に1本ずつ書く。
反省点	学期末レポートで忙しく、後半は計画通りに進まないことが多かった。忙しくても省庁イベントには参加していたので、良しとしよう。		書いた方がいいが、時間が無くて書き直しはできなかった。 2次試験前の5月にやり直した。

経済区分：山口

時期	基礎能力	専門択一	専門記述
12月第1週	傾斜配点を言い訳に専門択一の勉強に集中してほとんど手をつけられず	経済理論応用の受講を進める（受講＋問題集演習）（1/2） 統計・計量の学習を進める（1/2）	特になし
12月第2週			経済理論 経済政策（講義）
12月第3週			経済理論 経済政策（講義）
12月第4週			特になし
12月最終週			特になし
反省点	数か月後、後悔することになるため毎日コツコツと学習をしておくべきだった	経済理論の学習をもう少し早く進めておけば、12月の記述講義を受講しやすかったはず	特になし

時期	基礎能力	専門択一	専門記述
1月第1週	なし	理論応用(8/10)、計量（終）	経済政策（講義）
1月第2週		国際経済、財政理論	経済理論 経済政策（講義） 政策論文
1月第3週		国際経済、財政理論	経済理論 経済政策（答練）
1月第4週		国際経済、財政理論	経済理論 経済政策（答練）
反省点	毎日コツコツやるべきだった、、、	財政制度に手を回すことができなかった、、、	なし

【前回いただいた質問への回答】

Q. 論述対策はいつ頃から、どのようにすべきでしょうか

A. 今回のレジュメを見てね

Q. TACの受講スケジュールに合わせるべきですか

A. 可能であれば合わせるべきですが、自分に合っている学習法が見つかったら合わせる必要も無いと思います。

Q. 政策論文はどのように対策すべきですか

A. まずはTACの講義を視聴して答練を提出しましょう。時間配分や資料の活用法を予め決めておくと本番焦らずに済みます。3月の記述模試までに、一度答練で感覚を掴みましょう。

また、政策論文は資料を上手くまとめて、論理的な文章を作成できれば、足切り点を食らうことはほぼありません。むしろ奇を衒った主張や詳しすぎる政策論はあまり好まれないので、「120分でいかに分かりやすい文章を書けるか」だけを意識してください。年明けに合格者復元答案集が配布されるので、高得点の答案を参考にして、文章構成や接続詞の使い方などを真似してみましょう。

Q. どのようにメンタルケアをしていましたか

A. 人によって様々です。辛い物を食べたり、バンジーを飛びに行ったり、部活に熱中したりと自分に適した方法を探る必要があるでしょう。

Q. OB・OG訪問はすべきでしょうか

A. 大学やTACを通して行う訪問であれば必須ではないと思います。しかし、各省庁が実施する職員訪問は必須級と言えるでしょう。

Q. 官庁訪問体験談をお聞きする機会はありますか

A. 予定では2月頃のHRに実施する予定です。

Q. 12月以降のHRでは教養区分向けのお話は少なくなりますか

A. 試験については春試験向けのものとなりますが、官庁訪問についてなどを詳しくお話させていただく予定ですので、全区分向けのHRになると思います。

Q. 省庁説明会で意識していたことはありますか

A. 積極的に質問したり、説明会后に直接職員の方に話しかけることで、なるべく印象に残ろうと努力していました。

Q. 日々読んでいた本はありますか

A. 橋本：省庁関連の本は仕方がなく読んでいました。「最近読んだ本で印象に残ったものは？」のために1冊本を買いましたが、3分の1だけ読んで挫折しました。活字苦手なら読まなくてもいいかなと思います。

長井：『知的複眼思考法』はオススメです。サンデルの本もおすすめです。大前研一もいいですよ。『学問のすゝめ』などに代表される日本の思想家の本は結構おすすめです。とにかくたくさん読んでいて損はありません。

Q. 学業と試験勉強の両立はどのようにしていましたか

A. 時期によって優先順位を変えるのが良いかなと思います。単位はなるべく早く取り終えて試験勉強に全振りできるようにするのがベストです。

Q. 民間企業との併願はどのようにしていましたか

A. 国総第1志望&公務員併願なしだったので、試験勉強に支障をきたさないよう、選考が年内～2月に実施される企業を選びました。秋冬インターンから選考直結の企業だったので、12月に内定を貰い、民間就活とはサヨナラをしました。国総と民間で悩んでいる方は別ですが、「民間とは比較できないほど国総への熱意が強いんだ！！」という学生は、民間就活に振り回されて試験対策が疎かになると本末転倒なので、あまり気を揉みすぎないようにしてくださいね。

【今後の告知】

★LAカウンセリング★

内定者アドバイザー（LA）は皆さんのご相談をお待ちしています！
在席表はマイページから別紙・マイページ・メールニュースを参照ください。
深刻な相談、息抜き、愚痴、何でも結構です！

★12月ホームルーム★

「国家総合職合格への道～明けない夜はない～」

模試の活用法、年末年始活用法、官庁訪問対策、就活併願

12/12（月）18：30～19：30 オンライン

12/14（水）16：30～17：30 新宿校

予約不要、入退室自由です！

アンケートのご回答をお願いします！